

第7回 デフリンピック運営委員会

(議事概要)

1 開催日時

2024年5月27日(月) 15時から16時30分まで

2 開催場所

戸山サンライズ全国障害者総合福祉センター2階大会議室及びオンライン

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)
延興 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
畑中 淳子(弁護士)
早瀬 久美(デフリンピック選手)
薬師寺 道代(医師)
古屋 留美(東京都生活文化スポーツ局長)
太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)

○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・3月の第5回運営委員会では2024年度事業計画案、予算案、第6回運営委員会では書面開催にて、情報公開審査会の委員選任案について皆様にご承認を頂いた。
- ・本日は、2024年度デフリンピックフェスティバルについて諮りたい。

【運営委員の辞任および就任について】

(久松委員長)

- ・3月29日に前東京都生活文化スポーツ局長の横山委員から退職に伴う委員辞任の意向が出された。
- ・「デフリンピック運営委員選考規程」に基づき、デフリンピック運営委員会選考委員会において選考を実施。東京都生活文化スポーツ局長の古屋氏を、運営委員候補者として全日本ろうあ連盟理事会に議題提示することを承認いただいた。
- ・4月27日の連盟第1回理事会において、古屋氏を運営委員とすることが承認され、正式に運営委員に就任いただいたことを報告する。
- ・改めて、古屋委員より一言ご挨拶いただきたい。

(古屋委員)

- ・本日付けで運営委員として就任しました東京都生活文化スポーツ局長の古屋です。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・デフリンピック本番まで1年半を切ったところで、今年度は準備に向けて非常に重要な年になると考えている。先日始めたクラウドファンディングでは、すでに40名を超える方にご賛同いただいております。非常に心強く思っている。ろうあ連盟のみなさまと協力しながら、大会の成功に向けてこれから準備を重ねていきたい。
- ・大会の成功に限らず、それで生み出されるレガシーを「インクルーシブな都市東京」とい

うことで広げていくことも大切なことだと考える。大会後の東京が、暮らしやすい社会になるように大会を盛り上げ、みなさまと協力してやっていきたいと考える。どうぞよろしくお願ひ申し上げる。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより、次第に基づき議事に入る。

○議題 (1) 2024 年度デフリンピックフェスティバルについて

(久松委員長)

- ・「2024 年度デフリンピックフェスティバルについて」デフリンピック運営委員会から説明させていただく。

(倉野事務局長)

- ・2024 年度のデフリンピックフェスティバルは、今までデフスポーツやデフリンピックに関心がなかった層および子どもたちの目に触れる機会を増やすこと、そしてデフアスリートやデフ競技について周知を図ることを狙いとする。
- ・そのため、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で、全国8か所で実施する。
- ・開催候補地は、福島県、東京都、埼玉県、神奈川県、愛知県、京都府、他は現在調整中である。
- ・開催にあたり、運営委員会はその取り組みを後押しする為、2023 年度同様に地域ろう当事者団体に対し、1か所10万円を上限に助成を行う。
- ・イベントで配布する啓発物および掲示物の作成にあたっては、運営委員会が協力する。
- ・助成要件は、大会ビジョンにある「あらゆる人が協働」「子どもの参画」「デフスポーツやろう者の文化への理解を促進」「共生社会づくりに貢献」等に留意し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知度の向上を図り、デフリンピックの気運醸成に資するものであり、実施主体が、地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援があることとしている。
- ・対象とする経費は、諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料である。
- ・助成にあたっては、開催要項、予算案を運営委員会事務局にて審査し、また助成金に加え、他の補助金や参加費等の収入がある場合で、収入額が支出額を超過した場合は、超過した金額を差し引いて助成するものとする。

○報告 (1) 2023 年度デフリンピックフェスティバル実施報告について

(久松委員長)

- ・次に、2023 年度デフリンピックフェスティバルについて報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・2023 年度デフリンピックフェスティバルの実施について報告する。
- ・フェスティバル開催あたり、きこえない人と きこえる人の協働を通じた共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政の後援等の形を基本とした。

- ・運営委員会はその取り組みを後押しする為、地域ろう当事者団体へ1か所上限10万円の助成を行った。
- ・2023年度は、全国7ブロック（北海道、東北、関東、東海、近畿、中国・四国、九州）にて各1カ所開催した。なお、北信越ブロックは石川県で開催を予定していたが、能登半島地震の被災者支援を優先し、フェスティバルの開催は辞退することになった。
- ・助成承認手続きにあたり、開催要項、予算案、決算報告、証憑書類を運営委員会事務局にて審査し、主催団体に助成を行った。具体的には北海道協会10万円、福島協会86,770円、神奈川協会99,419円、東海ブロック10万円、鳥取協会10万円、福岡協会10万円となった。近畿ブロックは、参加費により収入が支出を上回ったため、助成金はゼロであった。

○報告（2）2024年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について

（久松委員長）

- ・次に、2024年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について報告させていただく。

（倉野事務局長）

- ・全日本ろうあ連盟の理事・監事及びデフリンピック運営委員会の役職員を対象に、コンプライアンス研修および利益相反管理研修を実施する。
- ・コンプライアンス研修は、4月に「ガバナンスの基本的枠組み」と「ろう者の文化の理解促進」をテーマに、事業団と合同で実施した。10月には法令遵守するための規範意識向上を図ることを目的に、「国際スポーツ大会におけるコンプライアンス」「情報公開」「コンプライアンス通信の発行」「チェックリストを用いた自己点検」により実施する予定である。
- ・利益相反管理研修は、7月に利益相反管理のため新たに制定した規程や仕組みについて周知徹底し、役職員が遵守すべきルールの理解を図ることを目的として、「利益相反管理規程」「利益相反管理」「事例研修」「申告書、チェックシートの書き方」について実施する予定である。
- ・今後も、デフリンピック運營業務に係る役職員の規範意識醸成を図るとともに、役職員がコンプライアンスに反することなく業務を遂行できるよう取り組む。

○報告（3）情報公開審査会の開催および委員長決定について

（久松委員長）

- ・次に、情報公開審査会の開催および委員長決定について報告させていただく。

（倉野事務局長）

- ・情報公開審査会は、情報公開規程第18条第1項に規定する開示決定及び不開示決定等に関する審査請求があった時の第18条4項に規定する回答に係る決定についての意見の答申を行うものである。
- ・3月に開催された第6回運営委員会にて、外部学識経験者から上嶋氏、斎藤氏、野村氏の3名を委員として承認いただいた。
- ・4月19日に第1回情報公開審査委員会を開催し、委員長の選任が行われ、互選により上嶋委員が委員長に選任された。
- ・情報公開審査会の位置づけ、役割について確認し、認識を深めた。次回以降の審査会を開催するタイミングについては、運営委員会が「審査請求を受領したとき」に開催することを確認した。

- ・これをもって運営委員会に設置されるべく諸委員会の設置及び委員の選任が完了した。

○報告（4）社会的・文化的プログラムについて

（久松委員長）

- ・次に、社会的・文化的プログラムについて報告させていただく。

（倉野事務局長）

- ・デフリンピック規約では、選手やその他大会を訪れる関係者等が、開催都市の社会的・文化的プログラムを含むレクリエーションプログラムを利用できるようにするとされている。
- ・2023年度は、大会に向けての取組として、きこえない芸術文化団体や外部有識者等で構成する検討チームを立ち上げ、会議を4回開催し、検討を進めてきた。
- ・検討チームの委員は昨年11月の第3回運営委員会で報告したとおり、全日本ろう者演劇協会前事務局長の植野氏をチームリーダーとし、きこえない芸術文化当事者団体から椎名氏、那須氏、外部委員として齊藤氏、中山氏の計5名である。
- ・これまで4回の会議を持ち、過去のデフリンピック大会の社会的・文化的プログラムの調査や本大会における社会的・文化的プログラムの検討を行った。
- ・検討チームでは、プログラムの方針を、子どもたちや市民の大会への関心を高めデフアスリートや大会への応援の気運を醸成することを目的とし、デフスポーツやデフリンピック、手話言語等について理解を深め、障害や多様性、共生社会について考えるきっかけとなる内容とするものとした。
- ・全国の自治体等で気運醸成事業を実施してもらうため、当該自治体等の負担をできるだけ軽減できるよう、事業の構成案をまとめたプログラムを作成し、カテゴリを①教育ワークショップ型プログラム、②イベントワークショップ型プログラム、および①②のプログラムを実施するための素材として③コンテンツ紹介とした。
- ・教育ワークショップ型プログラムは、小中学校で、デフスポーツやデフリンピック、きこえないことや手話言語について学び、大会への関心を高めてもらうことを目的とする。地域のきこえない講師を活用できるよう、また楽しみながら学べるよう、映像、ワーク、クイズ、ゲーム等で構成する指導案を作成した。
- ・イベントワークショップ型プログラムは、多くの市民が集まるイベントや施設を活用し、大会やきこえないこと、手話言語、ろう者の文化活動、情報保障機器などを体験し、共生社会の実現につなげるよう、自治体の既存のイベント等に組み込む形でワークショップの実施や展示ブースで構成するプログラム内容としている。
- ・教育ワークショップ型プログラムやイベントワークショップ型プログラムの取り組みを支援するため、講師や素材、情報保障機器・技術等のコンテンツを紹介するのが③コンテンツ紹介である。コンテンツのカテゴリは「デフスポーツ」「きこえないことや手話言語」「ろう者の社会活動」「展示ブース」とし、コンテンツに登録する団体や民間企業は、その取りまとめる団体また機関からの推薦としている。
- ・各プログラムは、コンテンツ紹介を作成の上、ポータルサイト上で公開し、加盟団体やデフ競技団体等を通じて実施を呼びかけていく。

○報告（5）デフリンピックスクエアについて

（久松委員長）

- ・続きまして、デフリンピックスクエアについて、北島部長より報告をお願いします。

(北島部長)

- ・昨年 11 月に策定した開催基本計画において、大会期間中、様々なサービスを提供する拠点としてデフリンピックスクエアを設置することを公表した。
- ・デフリンピックスクエアの中身としては、大会運営本部を置くとともに、選手向けの様々なサービスを提供する予定であり、その他メディアセンター、宿泊・輸送等の大会の運営に必要な機能を持たせる予定である。選手、その他多くの子どもたちに来ていただき、選手と交流する場としての機能も設ける。
- ・デフリンピックスクエアの場所など具体的な内容は調整が整い次第公表していく。
- ・今後のスケジュールとしては、6月6日に全日本ろうあ連盟理事会、6月11日に東京都スポーツ文化事業団理事会、6月24日に第8回大会準備連携会議を予定している。間に合えばその段階で公表された中身についてみなさんへお知らせする。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・これまでの議題・報告について、出席者の方々から意見をいただければと思う。
- ・まずは東京都から如何か。

(古屋委員)

- ・大会本番まで1年半というところで、気運醸成に向けたフェスティバルが工夫されていることは素晴らしいことだと思う。特に、大きな他のイベントと組み合わせできるだけ集客を図るという点も重要だと思う。引き続き、多彩な取り組みをされるように期待したい。
- ・コンプライアンスの関係でいろいろと研修を組まれていることは、非常に重要なことだと思う。イベント等の気運醸成と合わせて信頼できる枠組でデフリンピックが計画されているということは、デフリンピックが多くの方にご理解いただき支援されるための非常に重要な条件だと思う。引き続き、しっかりお願いしたい。

(延興委員)

- ・デフリンピックフェスティバルにおいて、助成金に頼らず、参加費による運営ができた団体もあるとのこと、いろいろ工夫されており感動している。
- ・先々週、神戸の世界パラ陸上の応援に行ってきた。本来 2021 年に開催されるはずだったが、コロナで2回延期され、なかなか盛り上がらなくて苦労されていたが、実際はとても素晴らしい大会になっていた。
- ・毎日平日の午前中は、市内の子どもたちが学校観戦でバックスタンドにいたが、その応援が本当に素晴らしい。子どもたちも勉強になったし、こんなに応援されたことは初めてだったと感動している海外の選手もいて本当に素晴らしかった。ぜひデフリンピックでも実施したいと思った。
- ・子どもたちがおそろいのストラップ、メガホン、観戦ガイドを下げている。これは、神戸市内の企業が少しずつお金を出して作ったもの。子どもたちの観戦グッズを企業のお金で作るといえるのは、とても良いと思った。クラウドファンディングもありますし、金額以上に様々な企業が少額でも参加できるスキームというのが、みんなで作り上げる大会ということで良かった。
- ・世界中の選手を応援しているが、やはり日本人が活躍すると子どもたちが本当に盛り上がる。ぜひ選手の発掘、出場選手の強化をしなければならない、頑張っていたいただきたいと思った。

- ・一般の観客席に各国のチームがきて選手を応援している場面があった。そこで観客との交流があり、競技場の雰囲気がとてもフレンドリーで素敵だった。デフリンピックの場合、言語の壁ときこえる・きこえないの壁があるが、観戦にきた子どもたちが選手とコミュニケーションをとれるような工夫ができれば、お互いにとって良い思い出になると思う。
- ・全体がとても暖かい雰囲気で、とても良い大会になっていた。デフリンピックもそれを大きく超えるように頑張っていきたいと思う。

(石原委員)

- ・手話を全面に出すことが、デフリンピックが特徴付けられる一番良い方法だと思う。
- ・Eテレで手話をテーマにしたアニメがあったが、子どもだけでなく大人も惹きつけられる。また、手話をテーマにしたマスコットキャラクターがあると、子どもが喜ぶ。その他ゲームやオタク的なものなど、もっと若者の興味を引くようなもので手話を広め、デフリンピックと合わせて広報していくと良い。

(太田)

- ・デフリンピックフェスティバルの集客について、仲間内・身内のようなイメージがあるが、やはり一般の全く知らない人たちを対象として行うことが大事だと思うので、様々な工夫が必要。
- ・2週間前に九州のろうあ者スポーツ大会が佐賀で開かれたが、応援観客を見るとやはり身内ばかりで一般の方はいない。今度10月に全国障害者スポーツ大会が開かれるが、どのように観客を増やすか。昼間ではなく夜に試合をやって、仕事が終わった方々に観戦していただくというような工夫をしているという話も聞いた。様々な方法があるが、デフリンピックの試合の時間帯も工夫がいるのかなと思った。
- ・また、きこえる人たちの競技では「音」が入っており、パシンと打つ音も試合の醍醐味だと思うが、我々は目で見てボールの行方・競技の行方を追うということがある。バドミントンのデフ選手だった女性が、試合で審判から「あなたは非常にパワーがある。音が非常に大きい。これはきこえる人たちに負けない。」と言われ、初めて「パワー」ということを知った。音の威力でパワーを知ること・そういうものが出ていることを初めて知ったと話していた。
- ・音とのつながりというのは、きこえない我々にはピンとこない部分があり、見えない部分である。JR上野駅のデジタルサイネージで音を文字化するという取り組みがあったと思うが、そういうのは子どもたちが見て楽しめる。スポーツを目で見て楽しむ取り組みというのも工夫していただき、またイベントの中でもっとそういった提案ができるのかなと思う。

(早瀬)

- ・デフリンピックまであと1年半を切るという迫った状況である。委員の皆様それぞれがいろんな意見を持ち寄ってくださっている中で、これらを上手くつなげていってデフリンピックを盛り上げていただけるとすごく嬉しく思う。
- ・今年の3月20日に神奈川県でデフリンピックフェスティバルが開催された。駅の目の前のところを借りて行き交う人たちが自由に参加でき、参加者何人というカウントができないようなオープン型のイベントだったが、そういった形でやると、みなさん立ち止まって下さる。結果的に、初めてデフリンピックを知ったという感想だとか、デフリンピックブースを見て関心を持ってくださった方がいたり、また競技の選手のみなさんにも協力をしていただき実際に使っている機材を展示し、それらを触ってみてもらうという体験をして、非常にいい機会をつくったと思っている。このような体験できる場があると、非常に興味関心が高ま

と思う。

- ・デフリンピックの気運醸成を高めるために、今までのデフリンピックに参加してきた選手たち、もう引退してしまった選手など、以前活躍した人をどんどん掘り起こして行って、その人たちが活躍できる場をつくり手話で伝えていくという、そういったものに結び付けていくことが大事だと思う。引退して終わりで関係が切れてしまうのではなく、やはり次のデフリンピックに向けて、別の形で関わり続けるという目標を作る、そうすると自分も頑張ろうという気持ちになる。デフリンピックはそういう選手が頑張れる大会であってほしいと思う。

(薬師寺)

- ・さきほど早瀬委員からオープン型のイベントがあったということが報告されたが、それが重要だと思う。集まった人数を数えるだけではなく、いかに多くの人に見てもらえるのかということ、フェスティバルの目的とすべきだと思う。今回フェスティバルを開催される都市においては、「しっかりと人数を数えるということではない」「もっと多くの方に知らせることが大事」ということを発信していただいた上で、計画をしていただきたい。
- ・このフェスティバルが“見て終わり”となっており、その次に繋がっていないところも、1つの問題だと思っている。次に繋がるしかけも、今年は考えていただきたいと思う。
- ・NHKもいろんなところで手話を取り上げて、子供たちにも手話を分かりやすい形で伝えている。これからいろいろな場で手話を勉強する機会がどんどん増えてくると思うが、そこで、手話をどういう形で勉強してもらったらいいのか、特にボランティアをしたいと思う方に対してなるべく早く手話を勉強できる機会を作っていただければと思う。
- ・応援についても、目で見える応援ってどうするのか、どうしたらみんながよく分かる応援になるのか。例えば「応援コンテスト」というのをフェスティバルに繋げて、そのコンテストで知恵をもらいたいと思う。
- ・一つの学校が一つの国の選手を応援し、その国のことを勉強する、オリンピックパラリンピックでもよくある企画。オリパラではそういう機会をもつことも少なかったと思うが、今回は実際に接していただける機会もあるので、ぜひご協力をいただきながら、子どもたちも盛り上げていけるような仕組み作っていただければと思う。

(久松委員長)

- ・ある小学校が一つの国を応援するというようなやり方で取り組む、台湾のデフリンピックのときに確かそういうことをやっていた。特定の小学校で交流の場を作っていくという話もあった。倉野事務局長、状況を少しご存じか。

(倉野事務局長)

- ・台北大会で、現地に行っていたときに話をきいた情報の中にそういったことが入っていた。
- ・台北市の中の小中学校に対して、この国を応援する学校担当を決めて、その国の選手との交流、また応援の寄せ書きを書いて選手に渡すということも取り組んだと聞いている。

(久松委員長)

- ・栗野さん、何かご記憶があればご紹介いただきたい。

(栗野)

- ・台北 2009、台北のデフリンピックのとき日本選手団が地元の台湾の小中学校との交流という予定で準備していたが、その時にインフルエンザが発生し、残念ながらそれが実現できなかったというような事実があった。インフルエンザがなければ同じように地元との交流、小中学校との交流そういった企画が実現できたことは確か。そういう記憶がある。

(畑中)

- ・報告事項の中で、利益相反取引と情報公開審査会のご報告をいただいた。
- ・役職員の方もコンプライアンス研修の対象に入っているのも素晴らしいことだと思う。
- ・情報公開審査会の方だが、こちら委員の方も問題のない皆さんが集まってしっかりした委員会ができたと思う。下の参考図を見ると、運営委員会がすべての要のような位置にあるので我々も気を引き締めていかななくてはならない。
- ・1つ質問があるが、参考図の右側の懲戒審査委員会の対象は運営委員会委員と事務局職員となっているが、ここは役員は入らないという理解でよいか。

(倉野事務局長)

- ・連盟の役員につきましては、連盟本体にある懲戒処分規程に基づいて対応する形になっている。しかし、本体の規程では運営委員また運営委員会の事務局職員をカバーできないので、運営委員会委員と事務局職員は、運営委員会の懲戒処分規程に基づき、ここで対応するという形となっている。

(畑中)

- ・情報公開に関しても、今もまだ裁判が続いている東京大会において情報公開されていた部分とされていなかった部分があり、もちろんすべてを公開することは運営上できないことは分かっているが、それに伴い不正確な事実、異なるような事実が、さもそれが本当であるかのように噂が通されてしまったことがあったと思う。情報公開というのはこの先実際に運営が始まって終わった後も大事になってくると思うので、我々もそうですし情報公開審査会の皆様にもしっかりとコンプライアンスを遵守していただきたいと思う。

(久松委員長)

- ・みなさんからのご意見をいただきましたが、補足という形で何かないか。

(薬師寺委員)

- ・いろいろな情報を見ても、SNSの発信がとても下手だなと思っている。活用できていない。SNSをもっと目につくようにもっと楽しく発信できる工夫をしていただきたい。東京都だけではなく、ろうあ連盟の方でもそれを考えていただきたい。そうすれば、誰かが取り上げて何万・何百万という方が目にするのになれば、1対1で対応するよりももっと、1回の発信で多くの方に情報を共有することができる。

今回の全国ろうあ者大会でもアンバサダーの方もご参加いただくが、その方々にもご協力をいただき、もっとSNSを発信し若者がデフリンピックに興味を持てるように、今後私共委員会としても注視していく必要があると思っている。

(久松委員長)

- ・大変貴重なご意見感謝申し上げます。
- ・SNSの発信というその手法についてももう少し工夫し、積極的な活用をすべきだというご意見をいただいた。これにつきまして、何かご意見はないか。

(太田委員)

- ・デフリンピックは聖火リレーはないのかという質問をいただいた。私自身もあまり意識はなかったが、取り組むのかどうかというところの確認をしたいが、如何か。

(久松委員長)

- ・現時点では、東京都スポーツ文化事業団の方でいろいろと協議をしているが、聖火リレーについては、予想よりも非常に費用がかかるということがあり、動員も要する。また、聖火リ

レーのコースの公道使用には行政や警察の協力や許可申請が必要となる。今このような準備というのは、時間的にこのタイトなスケジュールの中で余裕がないというのが正直なところである。今のところ、聖火リレーという話はこれからだと正直厳しいかなと思っているが、逆に気運醸成の中で全国みなさんに協力していただける方法を、別途創意工夫が必要ではないかと思っている。そのあたりどのようにして盛り上げていくかという気運醸成も、さらなる工夫をしてまいりたい。

- ・聖火リレーについて質問があった場合には、こちらの方で準備が必要だと思っている。聖火リレーだけではなく、様々な質問がでてくるということは関心の高さを表すことになるので、そのあたり我々も運営委員会と委員として責任のあるまた自覚をもった対応・回答をしたいと思う。回答の仕方は様々あると思うが、質問があった場合にはきちんと対応できるような体制というものを構築していきたいと思っている。
- ・他に何かご意見はあるか。
オブザーバーの方は如何か。

(栗野)

- ・太田委員のお話にもあったが、音情報をどのように視覚的に表現していくか・楽しめるかという、そういう視点、工夫がいる。
- ・卓球のラリーが行われるときのパチンパチンという音が分かるような視覚情報、パチパチという拍手をアニメで見る、そのような視覚的な情報の中で音情報を楽しめる、認知できるという検討をしているところに参加したことがある。みなさんも、そういうものを見て試してみても意見を出していくということも一つの方法だと思う。
- ・また、卓球大会において、きこえる人は必ず耳栓をしてきこえない人と同じ条件で参加し、音を感じない人がどう思うかをきこえる人に問題定義するという、そういう例もあった。こういうことも、今後企画を作って体験してもらいたい。
- ・現在 21 競技あるうち、残念ながら日本が選手として参加したことの無いものが 4 競技ある。その 4 競技をアピールし、新しい選手の掘り起こしに繋げるような企画も相談しながら進めているところだ。

(畑中)

- ・ガバナンスコードや大規模な国際組織委員会との体制の在り方に関する指針というのは、本当に大きな団体を想定しているので、限られた時間の中でこれだけ規定類をそろえて委員会の構築・ガバナンスの構築をしていくのは、すごく大変だったと思う。しっかりしたものを作ってください感謝する。
- ・問題がないに越したことはないが、もし実際に何かが起こってしまった場合でも、これだけしっかり相互に監視する体制ができていれば、外から何か言われたときに「うちはこれだけの体制を作っています」と、それだけでも一つ堂々と反論できるので、本当に素晴らしいと思う。

(清水)

- ・いろいろ出た話の中で、東京都の取り組みなどを少し説明させていただく。
- ・学校観戦という話をいただいたが、大会に子どもたちに参画してもらいたいということで、どのような形で参画できるかということを検討している。ご意見いただいとおり、参画してもらうためには子どもたちにとってあるいはアスリートにとっても非常に貴重な機会になるように、ただ観戦するというだけにならないように、いろいろ工夫しながらやっていき

いと考えている。きこえる人、きこえない人それぞれが、やはりこのデフリンピックに向けてお互いを理解し大会を楽しんでもらう、そういった機会にすることも必要だと思う。

- ・手話の番組の話があったが、東京都としても昨年度「しゅわしゅわデフリンピック」という手話言語を子供たちが親しめるような動画も作った。できるだけ多くの子どもたちに触れてもらえるように、引き続き周知かつ広報をしっかりやっていきたいと思う。
- ・きこえない方が競技の音を目で楽しめるような工夫についての話があったが、実際上野駅に「オノマトペ」という音を文字で表示するものがあった。同じように、スタートアップという新しい企業が様々な工夫・開発をしている中で、先ほど栗野さんから話があった、卓球で音を見える化して楽しんでもらえるような、そういった技術もいろいろ開発されている。そういった技術を発掘し大会に向けていろんな機会で発信できるように、大会に合わせてやっていく必要がある。今後東京都として力を入れてやっていきたいと考えている。
- ・今まで日本人選手が出たことのない4つの競技があるが、今、選手の発掘・育成ということでトライアウトを予定している。6月くらいに計画しているが、この4競技についてぜひ参加希望のある全国の方に集まっていただき、少しでも多くの選手がデフリンピックに出場できるよう、しっかり進めていきたいと思う。

【その他】

(久松委員長)

- ・最後になるが、事務局からどうぞ。

(倉野事務局長)

- ・運営委員会の運営委員のみなさまにつきまして、運営委員選考理由を早く公表すべきだったが、まだできていなかった。
- ・以前みなさまには内容を確認していただき、この内容についてご了解いただいたので、委員会終了後になりますがHPの方で改めてその件について公表させていただく。

(久松委員長)

- ・引き続き、マスコットについて清水部長より報告をお願いします。

(清水部長)

- ・マスコットについて情報提供させていただく。マスコットについて、3月の運営委員会開催に間に合わなかったため、その後各委員の方々には個別に説明させていただいた。
- ・現在公表に向けて準備を進めているが、様々な方から大会を応援していただきたいと考えており、公式キャラクターマスコットだけではなく、各自治体が持っている様々なマスコットキャラクターにも応援隊として参加してもらい、全国での盛り上げに繋げたい。公式マスコットと合わせて全国のマスコットで応援する「デフリンピック応援隊」というものを作っていきたいと考えている。この場を借りてご報告させていただく。

(久松委員長)

- ・他に委員のみなさまからご報告・ご質問はないか。
- ・本日皆さまからいただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、引き続き大会の成功に向けた準備を進めてまいりたい。
- ・これを持って運営委員会を終了させていただく。

以上